

新商品「裏事情」を発売した渡邊久憲社長(右)と農家の岩塚吉郎さん(左)飛騨市古川町下気多



## 低価格には「裏事情」あります 在庫の日本酒、廉価で販売

### 渡辺酒造店 酒米流通維持へ企画

新型コロナウイルスの影響で日本酒の需要が減少する中、飛騨市古川町壺之町の造り酒屋「渡辺酒造店」は、低価格の日本酒「裏事情」を新発売した。地元の酒米の生産、流通を維持するため、在庫の日本酒を廉価販売する試み。

同店は県内で年間に生産される酒米「ひだほまれ」の約65%を仕入れ、毎年約90万粒の日本酒を仕込んでいる。今年は新型コロナウイルスの影響で宴会などでの日本酒需要が減り、このままの販売量や在庫数が続けば、来年は酒米の購入を35%ほど

減らす必要があるという。

来以降も酒米を安定して仕入れるため、在庫の日本酒を新商品「裏事情」として安く販売することを企画した。保管していた上撰酒を通常より3割ほど安い価格で提供する。720ミリ入りか586円、1800ミリ入りか1284円(いずれも税別)で、同店の店頭かウェブサイトで購入できる。

同店の渡邊久憲社長は26日、酒米を生産している農家の岩塚吉郎さん(47)と町下気多の田んぼを訪問し、収穫間近の酒米の出来

を確認した。渡邊社長は「こだわりを持って米作りに励む農家のため、利益は度外視して流通のサイクルを回したい」と話した。

(稲木悠司)